

令和 2 年度 事業経営評価

団体名	大阪シティバス（株）	所管所属名	都市交通局
-----	------------	-------	-------

中期目標	(1) 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容
	市営バス事業を民営化し当該法人に事業を一括譲渡するに際して、本市が策定した「バス事業引継ぎ（民営化）プラン」の内容を着実に実現すること。
	(2) 中期目標期間
	令和 2 年 5 月 1 日から 令和 8 年 3 月 3 1 日までの 6 年間
	(3) 中期目標の期間終了時において、(1)の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態
民営化プランに記載のとおり、乗合バス事業の路線・サービスを持続的・安定的に提供している状態。	
【※団体が中期計画において設定する指標及び目標値については、未曾有の国難とも言える新型コロナウイルス感染症拡大による業績への顕著な影響を受けていることに加え、その収束時期が不明であり、今後の年度別の取組み事項等の見通しを立てることが非常に困難な状況が長期にわたり続いていることから、調整中である。】	

当該事業年度の自己評価	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価	
	一括して譲り受けた86 系統の一般路線バスについて、新型コロナウイルス感染症の影響により乗車人員が減少し、非常に厳しい経営収支となった。経営環境は引き続き厳しくかつ不透明であるが、一定のサービス水準を維持し、必要な安全投資を実行することができたものと考えている。	
	最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
	ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	いかなる事業環境においても、バスサービスを将来にわたって安全・安心に、また持続的・安定的に提供していくため、引き続き「経営の健全性の確保」及び「徹底した交通の安全性の確保」に取り組んでまいりたい。
	当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価	
当該事業年度の評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、非常に厳しい経営状況下にあるが、民営化プランやグループ中期経営計画の内容に即して、一般路線バスについて、86系統による路線・運賃等サービス水準を維持し、市内交通を支える事業者としての役割を果たしている。	
	助言等及び講ずるよう求める措置の内容【大阪市内外郭団体等への関与及び監理に関する条例第 7 条第 5 項】（※必要な場合のみ）	
市の評価	中期目標に基づき団体が中期計画等において設定すべきバス事業における年度別の具体的な指標、目標値を設定できていないことについては、現下の状況からやむを得ないものと認識している。	
	一方で、中期目標を達成する具体的な道筋・工程を確認し、適切にPDCAサイクルを回す観点から、各事業年度の指標、目標値をできるだけ早期に設定する必要がある。 以上の点を考慮し、中期計画の策定に今なお時間を要するのであれば、実績を踏まえた短期的な視点をもとにして、先行して年度計画を対象事業活動の評価スケジュールを勘案し、令和 3 年11月末を目途に策定されたい。また、中期計画についてもできるだけ早期に策定を進められたい。	

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組一 1 (※分野ごとの評価)

中期計画	団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容					
	バス路線・サービスの維持向上					
	【※団体が中期計画において設定する指標及び目標値については、未曾有の国難とも言える新型コロナウイルス感染症拡大による業績への顕著な影響を受けていることに加え、その収束時期が不明であり、今後の年度別の取組み事項等の見通しを立てることが非常に困難な状況が長期にわたり続いていることから、調整中であり、下記の指標・目標及び実績値については、中期目標に基づき参考に記載している。】					
	指標Ⅰ	一般路線バス（86系統）のサービス水準の維持				
	目標値	R2目標	進捗率	R3～R6目標	進捗率	R7目標（最終目標）
		—	—	調整中	—	調整中
中期計画	指標Ⅱ	車両更新に合わせた安全投資（更新台数）				
	目標値	R2目標	進捗率	R3～R6目標	進捗率	R7目標（最終目標）
		—	—	調整中	—	調整中

年度計画達成状況

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容			【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容		
—			一般路線バスの86系統による路線・運賃等のサービス水準を維持した。 安全投資について、更新車両14両（EDSS（ドライバー異常時対応システム）、モバイルアイ（衝突防止システム）を96両に搭載。		
【指標Ⅰ】目標の達成状況					
実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	—	—	86系統維持	—	
中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】		ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった		
【指標Ⅱ】目標の達成状況					
実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	—	—	14両更新	—	
中期計画に対する進捗状況 【当該事業年度】		ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった		

外郭団体の自己評価	指標の達成状況	ア：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない
	当該事業年度の達成状況について	
	一括して譲り受けた86系統の一般路線バスについて、新型コロナウイルス感染症の影響により乗車人員が減少し、非常に厳しい経営収支となったものの、一定のサービス水準は維持することができたものと考えている。 安全・安心の取組みについて、走行中の運転士に異常が発生した際に乗客等が車両を緊急停止させることができるEDSS、カメラにより危険を察知して運転士に警報するモバイルアイを、一般路線バス等に搭載し運用を開始するなどの取組みを進めた。	
	最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について	
	いかなる事業環境においても、バスサービスを将来にわたって安全・安心に、また持続的・安定的に提供していくため、引き続き「経営の健全性の確保」及び「徹底した交通の安全性の確保」に取り組んでまいりたい。	

市の審査	指標の達成状況		「外郭団体の自己評価」に対する審査結果	
	a：目標達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成 (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない		新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、非常に厳しい経営状況下にあるが、一般路線バスについて、サービス水準を維持し、安全性向上の取組みも進めている。	
	「様式1：中期目標(3)」に対する取組の有効性		ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す	
	「中期目標」達成の視点からみた審査結果			
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用客の減少が続き、親会社であるOsaka Metro以上に厳しい経営環境にあると認識している。今後、安全・安心はもとより、快適で便利なバスサービスを提供できるよう取り組まれたい。			